

7月 おたよ

Splash南4条スクール



水筒のご用意ありがとうございました！“自分の”水筒がうれしくて、「みて！」と見せてくれたり、お散歩時には「自分で持ちたい！」という意欲もみられるように❖コップではなかなか水分を摂りたがらなかった子も、水筒だとゴクゴク飲んでくれるようになりました！

最近、子どもたちが『先生』になりきってあそんでいる姿がよく見受けられます☀
「はーい！こっちにきてならんでください！」「ねますよ〜」など、よく見ているな〜と成長を感じる日々です！！時々、クスッと笑えるような場面もあったり、“子どもたちにはこう見えているんだ…”と私たちにも緊張感が・・・😅（笑）もし、お家でも面白エピソードがあれば連絡帳などで教えていただけたらと思います♥

みずあそび をしたよ🌻💧



わあ！！
シャワーだあ😊



おなかすいたー！！



また
みずあそびして
あそぼうね☆



お知らせ

医療受給者証の期限が
「令和4年7月31日まで」となっています。
新しいものが届きましたら、医療受給者証の
コピーの提出をお願いいたします。

8月の予定

- 3日 身体測定
- 5日 なつまつり
※9:15までに登園してください
- 10日 洪水避難訓練

熱中症にご注意を！

熱中症

熱中症とは、主に初夏から夏にかけて環境に体が適応できないうことで起こる様々な症状の総称です。晴天時の暑いときだけでなく、湿度の高いとき（梅雨など）も起きやすく、高温多湿である、梅雨明けの暑いときが最も発生リスクが高いです。高齢者が多いですが、小児もかかりやすいです。子どもは低年齢ほど症状をうまく言えないことに注意してください。症状は進行することがあるので、その後の経過にも注意。悪化するようなら速やかに救急車などで医療機関を受診してください。

<h2>I度</h2> <p>発汗 平熱</p> <p>[軽症]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> めまい <input type="checkbox"/> 立ちくらみ <input type="checkbox"/> 筋肉痛（こむら返り、足がつるなど） <input type="checkbox"/> ほとんど汗をかかず <input type="checkbox"/> 手足のしびれ <input type="checkbox"/> 気分不快感 <p>● 意識障害なし ● 通常脱水はなく、熱も上がらない</p>	<h2>II度</h2> <p>発汗 40度未満</p> <p>[中等症]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> 吐き気 <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> だるさ <input type="checkbox"/> 疲れ <p>● 発汗あり ● 体温は正常～40度未満 ● 意識障害なし ● 夏に流行する胃腸炎などの感染症と紛らわしいことがある</p>	<h2>III度</h2> <p>発汗 停止 異常な高体温</p> <p>[重症]</p> <p>(IIに加えて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 呼びかけへの反応がおかしい <input type="checkbox"/> けいれん <input type="checkbox"/> 真つまずき走れない <input type="checkbox"/> 異常な高体温 <input type="checkbox"/> 肝臓や腎臓の障害など（血液検査でわかります） <input type="checkbox"/> 汗が出なくなる（発汗停止）
--	---	---

応急処置のポイント

体を冷やして、水分補給

1 涼しい場所へ移動し、あおむけに寝かせる
クーラーがきいた室内など涼しい場所へ移動し、あおむけに寝かせます。

2 身体冷却
服をゆるめ、保冷剤やタオルで首・わきの下・太ももの付け根など太い血管の部分で冷やします。肌には水をかけたり、濡れタオルなどで拭き、厚紙などでおおさます。
✕ エタノール噴霧や制汗スプレーは、熱中症の応急処置としては推奨されていません。

3 水分摂取
脱水の治療としては経口補水液（ORS）がおすすめです。



<p>何が正しい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アクアライト®ORS ● 授乳中の児は母乳やミルク <p>乳児で脱水がとも思われる場合は速やかに受診してください。</p>	<p>どれくらい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 乳児 30～50ml/kg ● 幼児 300～600ml/日 ● 学童～成人 500～1000ml/日
--	---

症状が改善しない場合は受診

自家用車ですぐに受診

- 経口で水分補給できない
- 様子を見ていたが症状が改善しない
- 意識障害はない

点滴治療が必要なため自家用車でもOK

III度の可能性がある場合 救急車を呼んでください。

- 体温が高い
- 意識障害が少しでもある
- もしくはけいれんがある

入院治療が必要（場合によっては集中治療も）なので、緊急で救急要請をしてください。
救急車を待つ間にも、応急処置を進めてください。

119番



参考文献 日本救急医学会熱中症診療ガイドライン2015・日本救急協会Webサイト「熱中症ゼロ」(https://www.netsuzero.jp)・岡本 健「熱中症にならないために」チャイルドヘルス19(8),569-572,2016・伊藤 博里「小児熱中症の特徴と発症予防」外来小児科20(1),67-72,2017